



多くの参拝者の中、讃仏偈がおつとめされた



第49号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号

Tel: 078-341-5949

秋季彼岸会修行 ～改めて感謝させていただくご縁に～

お盆の期間が終わると、息をつく間もなく、秋のお彼岸のご縁をお迎えすることとなりました。

神戸別院では、九月二十二日から二十四日の三日間、滋賀県近江八幡市願證寺の本多智道師をご講師にお迎えして秋季彼岸会の法要を修行いたしました。

三日間で百七十名を超える参拝者の方に彼岸のご法縁に出あっていたきました。先達の言葉には「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、その言葉通り、猛暑と言われていた暑さも収まり、少し肌寒さを感じるような気候でした。

中でも参拝者の多かった中日の二十三日では、神戸別院仏教婦人会の方が作ってくださったおはぎが参拝者に配られました。「このおはぎを毎年楽しみにしています」とのお声もいただけるので、有り難いことです。

さて、この「彼岸」とはもちろん季節を表す言葉ではありません。これは仏教用語で、「お浄土」を表します。生きとし生ける全てに限りがあり、苦悩に満ちたこの私たちが住む世界を「此岸（しがん）」と言い、その対となる、阿弥陀様のおられる極楽浄土のことを「彼岸」と呼びます。

彼岸の期間とは秋分の日を中日として、それぞれ前後三日間、計七日間のことを指し、真西に沈む太陽を礼拝し、



本多 智道 師

西方にあるお浄土に思いを馳せることから始まっているとされます。この期間中は、お浄土をしのび、往生されたご先祖を思い、お寺参り・お墓参りする習慣が定着しているようです。

このお彼岸のご縁に出あわせていただくことで、自分のことばかり考え、他を顧みないあさましい私たちを、お浄土へ生まれさせ、仏にするとはいってくださる阿弥陀様のみ教えを味あわせていただきます。

私たちは、先にお浄土へ生まれ、仏となられたご先祖の方々のおかげで、此岸にこのいのちをいただくことができました。そして、ご先祖の方々のご苦労のおかげで、彼岸へと続く尊いお念仏の道に出あうことができました。彼岸の期間は、こうしたおかげさまの感謝のうちに、過ごしていきたいものです。

モダン寺仏教講座

浄土真宗ではお位牌を用いない

亡き人の法名を刻んだ位牌をお仏壇の中に入れているお宅を、たまに見受けます。位牌の前にお仏飯やお水が供えられていたり、真ん中に置いて、ご本尊が隠れてしまっていたりすることもあります。これでは何のためにお仏壇を求め、ご本尊をお迎えしたのかわかりません。

そもそも位牌は、中国の儒家で用いられていたもので、亡き人の官位と姓名を記した碑（ふだ）であり、そこに神霊が宿ると信じられていました。やがて日本の先祖崇拜と結びつき、仏教にも転用されたのですが、やはり根底に「霊の宿る所」という認識が残っていると云わねばなりません。浄土真宗で位牌を用いないのは、そうした仏教にそぐわない霊魂観に基づいたものだからです。

それでは、亡き人を偲ぶよすがは何もないのかというとそうではありません。過去帳か法名軸をお使いください。過去帳は、先祖の記録のようなもので、亡き人の法名、俗名、死亡年月日などを記しておきます。命日

や法事の時に過去帳を置く場合は、台に載せて開け、御本尊の妨げにならないようにお仏壇の中段脇か、下段に置きます。法名軸はお仏壇の側板にかけるようにします。

（『新・仏事のイロハ』より抜粋）



内容が気になる方は
この本をチェック！

『新・仏事のイロハ』

価 格：700円+税

著 者：末本 弘然

出 版 社：本願寺出版社

●神戸別院2階書籍コーナー
で販売しております



ご輪番のお話

本願寺神戸別院輪番

杉本 正信

我がこととして

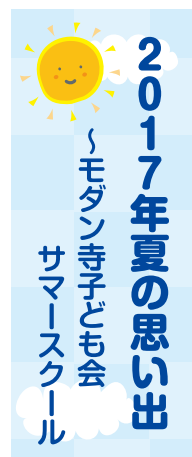
10月22日に衆議院議員総選挙の投票が行われました。各党がそれぞれの主張を繰り返していましたが、今回は子育て支援にかかる消費税の使い方や、憲法9条の改正等にかかると憲法改正の問題が大きな争点であつたように思われます。投票日まで各地域で熱弁が繰り広げられ、考え方の違いから新しい党も誕生し、投票率もあがるのではないかと思われていましたが、いざ蓋をあけてみると半数近くの有権者が投票に行かないのが現実です。「自分には関係ない」と無関心になっていることが一番の原因かもしれません。



私たちは自分の「いのち」の行く末についてですら、無関心でいてしまっていることがほとんどです。自分のことですら、目の当りになるまで、なかなか心が向きませんし気がつきません。

私たちは、自分にとって不都合なことが起きると他者のせいにしたたり、思い通りにいかないと愚痴をこぼしたり、腹を立てたり・・・真実に目を背け、自己中心に生きています。まさに地獄行きの日暮をしているのが私たちであります。自分ではどうすることもできないそんな私たちに阿彌陀如来さまは「必ず救う」と常に寄り添ってくださっているのです。

いよいよ年末となり、あわただしい日々の中ではありますが、もう一度、我が身を見つめなおさせていただき、「いのち」の有りようを我がこととして、阿彌陀如来さまのお慈悲が、いつでもどこにいても届けられていることに感謝しつつ、新しい年を迎えたいものです。



夏の日差しが眩しい8月。「モダン寺土曜子ども会サマースクール」が8月2日～3日にかけて開催されました。今年は、11人の子どもたちが参加してくれました。

受付を済ませた後は、開校式。本堂に集まって、みんな大きな声で『はいはのうた』をお勤めました。その後、杉本輪番の挨拶の中で、「このサマースクールの中で、たくさんのお出を出を作ってください。そして、家に帰ったら家族の人にその思い出を、話してあげてくださいね」と挨拶があり、子どもたちは大きな声で「はい」と返事をしていました。

一日目の一大イベントはみんなで協力して行うカレー作りです。

クラフトや作法の勉強のあと、夕食のカレーの準備にとりかかりました。食材の買い出しを行う班と材料を切ったりする班に分かれて準備をし、準備中もどんなカレーが出来るのか楽しみにしながら、みんなで協力して作りました。

カレーが出来上がるとみんな美味しそうに口いっぱいカレーを頬張りながら食べていました。



美味しくできるかな？

夕食後は、別院隣の銭湯で入浴を済ませ、夏の風物詩である花火を行いました。それぞれ火をうつしあったりしながら、とても楽しく過ごしていました。

その後、和室に会場を移して、「ともしびの集い」を行いました。手に持ったローソクの火をたよりにあつまり、このサマースクールでの目標を発表しました。みんな疲れていたのか、就寝時間になると、気持ちよさそうに眠りにつきました。

翌朝は、朝6時に起床し、眠たい目をこすりながらのラジオ体操とお朝事。お朝事後は、ご法話を聴聞しました。



ハイ！チーズ！！

そして、2日目は、「しあわせの村」にバスで移動し、午前中アスレチックをしたり、鬼ごっこをしたりして遊びました。お昼ごはんは、併設のキャンプ場でバーベキューを行いました。火を起こすところからみんなで協力して行つたので、いつもよりおいしく食べることができたようです。

日程の最後は、別院に帰って閉校式を行いました。閉校式では、一人に修了証が渡され、あつという間に2日間の日程が終了しました。

参加した子どもたちにとっては、忘れること出来ない、大切な思い出が出来たことでしょう。

モダン寺子ども会 会員募集中

クラフト教室や室内レクリエーションを行っています。4月は花まつり、5月・10月は遠足、8月は花まつり、2月は料理教室など、様々なイベントも行っています。年会費は無料です。お友達を誘ってみんなでお寺へお参りしましょう。

お問い合わせ先：本願寺神戸別院 モダン寺子ども会担当（渡邊）

TEL 078-341-5949（代表）



行事予定

12月

2日

昼13時30分から

第一土曜仏教講座

講師…杉山 義伸師
(兵庫県宍粟市明源寺)

10日

昼14時から

神戸別院仏教壮年会

報恩講法要
講師…望月 覚哉師
(兵庫県たつの市善徳寺)

15日・16日

昼13時30分から

常例法座

講師…大西 宝雲師
(兵庫県宍粟市教専寺)

31日

夕16時から

除夜会

お勤めのみ



1月

1日

朝7時から

元旦会

お勤めのみ
※お勤め後、
ご流杯の儀がございます

15日・16日

昼13時30分から

常例法座

講師…別所 法宣師
(兵庫県神戸市教覚寺)

17日

昼13時30分から

阪神・淡路大震災物故者
総追悼法要講師…清水 健氏
(元読売テレビアナウンサー)

20日

昼13時30分から

神戸別院仏教婦人会

報恩講法要
講師…杉本 正信他
(神戸別院輪番)

阪神・淡路大震災 物故者総追悼法要修行の お知らせ

阪神・淡路大震災でお亡くなりになられた方々を偲び、改めて、私たちの「いのち」について考える法要です。

期日：2018年1月17日(水)
午後1時30分～ 修行

講演：清水 健氏

(キャスター／元読売テレビ
アナウンサー／一般社団法人
清水健基金代表理事)

※お席・駐車場には限りがあります。
早めにご来院ください。



除夜会・元旦会修行の お知らせ

仏さまへ年末・年始のご挨拶にご本堂へぜひお参り下さい。

除夜会

期日：2017年12月31日(日)
午後4時～ 修行

元旦会

期日：2018年1月1日(月)
午前7時～ 修行

※お勤め後、
ご流杯の儀がございます